

3 具体例に見る 中小私鉄の取組 分析の方法と視点、選定の理由

1

1. 事例選定の理由

本研究誌のテーマは中小私鉄をめぐる現状を概観することにある。では、そもそも、中小私鉄とは何を指すのだろうか。地方都市圏の鉄道を指す名称としては、地方民鉄、地方鉄道、地域鉄道、中小民鉄、地方交通といったさまざまな用語が存在する。本研究誌では、地方都市圏の鉄道がその地域の住民の足としての重要性を有するとともに、域外から来た観光客の移動手段となることで地域に経済的利益をもたらす手段としての重要性を有することを前提に、それが置かれている現状と現状に対応するための取組みについて概観してゆこうというものである。このような意味での中小私鉄は、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成十九年法律第五十九号）第二条第一号が定める、「地域住民の日常生活若しくは社会生活における移動又は観光旅客その他の当該地域を来訪する者の移動のための交通手段として利用される公共交通機関」たる「地域公共交通」の定義に重なる。そこで、本研究誌では、中小私鉄を「地域公共交通」たる鉄道事業者・軌道経営者を指す用語として定義する。

本研究誌では中小私鉄の例として、一畑電車、伊予鉄道、富山地方鉄道、上信電鉄、小湊鉄道、いすみ鉄道、能勢電鉄、関東鉄道を扱っている。上述の中小私鉄の定義からすれば全国各地に所在するどの鉄道事業者・軌道経営者もその定義に当てはまるが、本研究誌ではその中でも、東京・大阪の大都市圏近くに所在する中小私鉄として、小湊鉄道・いすみ鉄道・上信電鉄・能勢電鉄、関東鉄道を取り上げ、それらの大都市圏からは離れた地に所在する中小私鉄として、一畑電車・伊予鉄道・富山地方鉄道を取り上げることで、それぞれの地域の実情にあった中小私鉄の取組みについて見てゆきたいと考える。

2. 分析の視点及び方法

我が国では少子高齢化や地方から大都市圏への人口流出の進行やコロナ禍に伴う外出需要の減少などの事情は、どの中小私鉄においても大きな影響を及ぼしている。そのため、以下の各具体例では、まず各中小私鉄が置かれている現状について説明する。その上で各中小私鉄が現状に対応するために講じている取組みとしてどのようなものがあるかについて説明する。

各中小私鉄が行っている取組みとしてはさまざまなものがあることから、各具体例ではそれらを設備や車両更新といったハード面での取組みと、PR活動や利用促進施策といったソフト面での取組みとに分けて観察してゆく。

(4年 細川)